

千早赤阪村×地域活性化起業人！

1. 千早赤阪村について

千早赤阪村は、大阪の南東部に位置し、南河内地域に位置する大阪府唯一の村です。

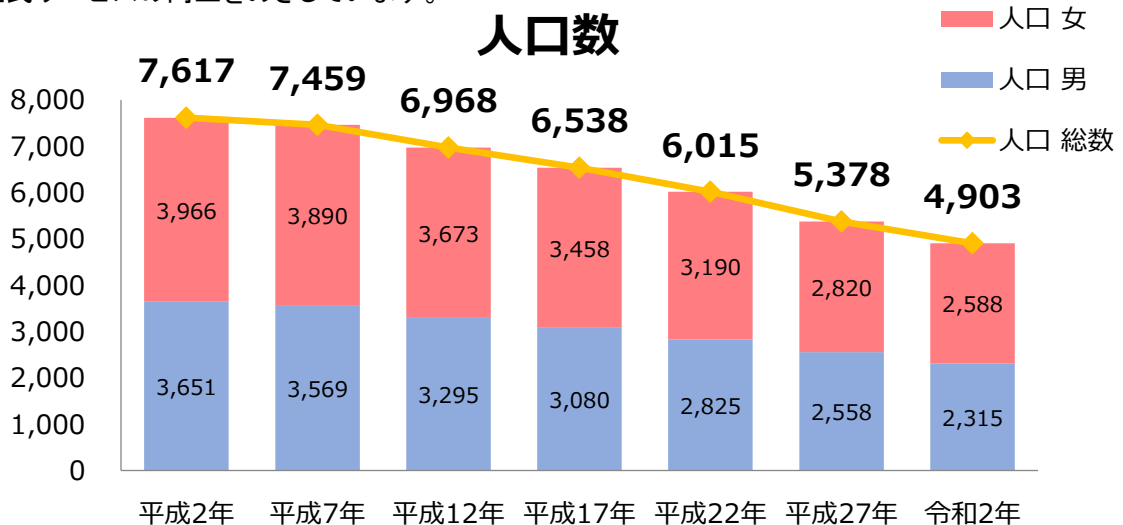
日本の棚田百選に選定されている下赤阪の棚田が広がり、大阪府内最高点を誇る「金剛山」を有する金剛生駒紀泉国定公園と南北朝時代の武将「楠木正成公」ゆかりの神社や史跡が点在しています。このような豊かな自然と歴史・文化に抱かれ、大阪市内から車で1時間というアクセスの良さから、多くの観光客、登山客が訪れています。

千早赤阪村は、昭和31年に千早村と赤阪村が合併して誕生しました。

人口は現在約4,800人、昭和60年の7,697人をピークに減少を続け、約4割の人口が減少しました。

平成26年4月に改正された過疎地域自立促進特別措置法によって大阪府内で初めて過疎地域に公示され、今後も人口減少が進むと予想されるなか、村税の確保や医療・介護費用の増大、地域コミュニティの維持など多くの課題が見込まれます。

そこで、千早赤阪村では、地域活性化起業人制度を活用し、村の活性化に取り組みながら、住民サービスの向上をめざしています。



楠木正成公ゆかりの地 楠公誕生地



金剛山(標高 1,125m)

2. 千早赤阪村の課題

(1) 人口減少による財源の確保

村の財源の一つとなるふるさと納税については、平成 28 年度には、2億3千万円の寄附がありました。令和4年度は 276 件 724 万円となっています。今後は、返礼品の拡充、新規事業者開拓などが課題となっています。ふるさと納税寄附額の増収とともに、千早赤阪村ファンの創出、関係人口の増加、知名度の向上をめざして、財源の確保を図っていきます。

●千早赤阪村直近の寄附額について

年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
寄附件数	773	310	276
寄附金額（万円）	988	630	724

(2) デジタル・デバイドの解消

千早赤阪村の高齢化率は令和6年3月末現在約 47%と府内の市町と比較しても著しく高く、少子高齢化の歯止めが利かない状況に陥っています。そうした中で、行政のデジタル化を進めていくには、高齢者のデジタルスキルアップが必要不可欠であり、重点的に取り組んでいく必要があります。

デジタル・デバイドとは・・・インターネット等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間にもたらされる格差のこと。

3. 地域活性化起業人制度について

地方自治体が、三大都市圏に所在する企業等の社員を一定期間受け入れ、そのノウハウや知見を活かしながら地域独自の魅力や価値の向上等につながる業務に従事してもらい、地域活性化を図る制度です。受け入れが可能な自治体は、①三大都市圏外の市町村②三大都市圏内の市町村のうち、条件不利地域を有する市町村、定住自立圏に取り組む市町村及び人口減少率の高い市町村です。

4. 課題解決×地域活性化起業人の活用

(1)人口減少による財源の確保



株式会社ぐるなび 村田 彰子
プロモーション事業部 食と観光企画部
地域振興セクション 地域アライアンスグループ

・業務内容

村政戦略部秘書企画課に在籍。千早赤阪村の魅力づくりや情報発信につながる取組、関係人口の増加を図るため、特産品の開発、返礼品の6次産業化や広報・ホームページ等わかりやすい情報発信業務に従事しています。

(2)デジタル・デバイドの解消



特定非営利活動法人 きんきうえぶ 寺田 耕平

・業務内容

村政戦略部戦略推進課に在籍。日常的に楽しみながらスマートフォンを活用できる仕掛けづくりとして、「押忍！スマホ道場」を開催し、高齢者等のデジタルスキルアップを図り、デジタル・デバイドの解消につなげる業務に従事しています。

(3) デジタル化の推進



株式会社ジェイコムウエスト

堺局管理部 地域プロデューサー 黒田 融

・業務内容

村政戦略部戦略推進課に在籍。国のデジタル化が進む中、千早赤阪村が今までと変わることなく、行政サービスを提供していくには、積極的なデジタル技術の導入による業務の効率化等が求められます。

今後デジタル化を進めていくにあたり村民の暮らしを守ることを第一に考え、取り組む事項を整理、理解を得ながら迅速かつ着実に進めていく必要があり、行政手続きのオンライン化やデジタルツールによる環境の整備など村のデジタル化の実現にむけた業務に従事しています。令和6年5月よりスマホをもっていないシニア 300 名を対象にスマホを無償で提供する『村でスマホをあたりまえに「はじめてのスマホ」モニター募集事業』を実施しています。

●千早赤阪村が掲げるデジタル方針

- ①マイナンバーカードの保有率向上
- ②行政手続き等のオンライン化
- ③ペーパーレス化と事務効率化の実現
- ④AIによる業務自動化
- ⑤行動要支援者の正確な把握と情報配信
- ⑥小学校での学習システムでの活用
- ⑦デジタル人材派遣の活用
- ⑧デジタルツールの環境整備

5. おわりに

千早赤阪村のシンボルである「金剛山」。

昭和 41 年に開業した村営金剛山ロープウェイは、令和3年に廃止撤去を決定しました。

現在、村のシンボルである「金剛山」を中心とした特産品の開発等を進めつつ、「魅力あるむら」をめざして、さまざまな事業を実施しています。

ぜひ、多くの方々に一度千早赤阪村へお越しいただき、美しい四季折々の景観などに親しんでもらいながら、千早赤阪村の魅力を感じて頂ければと思います。

千早赤阪村では、今後も地域活性化起業人制度を活用しながら、民間企業、住民と手を取り合って元気なむらづくりに取り組んでまいります。



千早赤阪村公式ホームページ

<問合せ先> 千早赤阪村 村政戦略部秘書企画課 電話:0721-72-0082